

食と農おおいた

2011年6月号 NO82

ネットワーク設立2周年記念講演が開催される

5月7日(土) おおいた有機農業推進ネットワーク設立2周年記念講演を開催しました。講師はNPO法人ゆうきびと代表(元柿木村職員)の福原圧史さんでした。旧柿木村は島根県と山口県の県境にある小さな山村です。(現在は合併して吉賀町)日本の山村がどこでもそうであるように、柿木村も高齢化、過疎化が進んでいます。昭和35年から平成17年の45年間に人口は13,876人から7,362人に46.9%も減少しました。「急速に進む少子高齢化社会のあり方を展望するに当たり、私たちは現実を捉えなおし、価値観やライフスタイルを必要があれば変え、守るべきものは守っていくという視点も重要です。」と福原さんは言います。

柿木村が守ったものは自給的農業であり化学農薬や化学肥料を使わない有機農業でした。その背景には高度成長時代の物の豊かさや便利さと引き換えにもたらされた自然破壊や生命破壊に対する反省がありました。柿木村の取り組みは農業だけでなく合成食品添加物や合成洗剤を使わない運動も始まりました。

福原さんたちの活動のすばらしいところは理論と実践が結びついていることです。単に理想論を述べるだけでなく、地道な活動を続けてきたことです。その一つに消費者グループとの提携があります。柿木村の運動が金儲けや物質的豊かさの追求ではなく、命を大切に本当の豊かさを求める運動であることが、消費者に伝わったのだと思います。その後、山口県、島根県各地の給食センター、生協、スーパーへと提携は拡大しています。

柿木村は大規模化や効率化を優先する世の中の流れと反対の有機農業による小規模複合経営を進めてきましたが、それを支えた理念は自然や命の大切さへの認識があったからだと思います。

しかし現実的な問題として所得の確保と集落の維持は避けて通れません。柿木村は山間地であり農地も狭いので大規模化や単一作物による所得の確保



は望めません。柿木村の目指した方向は兼業所得を前提にできる限り農地の集積はせず、年齢や体力にあわせて自ら耕し、人との交流の中で消費者の支援も期待しながら農地の維持を図ることでした。流通は交流できる範囲が基本で青空市、学校給食、道の駅等のできる限り身近なところからの販売を始めました。

全国津々浦々にある山間地集落では、急速な高齢化や人口減少によって限界集落と呼ばれている地域が増えています。国や県の支援だけではこの流れは止まらないと思います。柿木村の例は住民自らが考え行動して、農地や地域を守る取り組みをしています。大分県の多くの山間地も過疎化や高齢化が進んでいます。柿木村の地域を守る活動が参考になると思います。

「企業・NPO 法人等からの重点分野創造プラン（緊急雇用事業）」

緊急雇用創出事業とは求職者を対象に企業や NPO 法人から事業の企画提案を受けて、大分県の委託事業として実施する事業です。当法人は「有機農業推進のための人材育成事業」の提案を行い採用されました。事業の目的として 新規就農者の受け入れ 有機農業者マップの作成 定期市の開催を上げました。

3 月中旬に事業が決定し、4 人の研修生を採用するためにハローワークに求人の申し込みをしました。求人は初めてなので手続きも分からず心配でしたが、大分県ブランド推進課やハローワークの担当者の親切な指導で何とか求人を行うことができました。求人場所としては宇佐市、豊後大野市、臼杵市の 3 地区でした。応募があるだろうかと心配しましたが、予想に反して（？）求人票を提出した日から問い合わせがあり、次の日から面接が始まりました。面接を受けたことはありますが、面接をする立場になるなんて思いもよらないことです。8 人の応募があり全員を採用したかったのですが、泣く泣く 4 人の方を採用しました。研修生は来年 3 月までの期限で研修先の農家で研修を受けます。現在、4 人の研修生は元気に研修先で頑張っています。

研修生からの報告

戸次修裕

まず始めに、私にとっては未知の領域であった有機農業をなぜ学びたいと思ったのか、そのきっかけになったことからお話しします。

私は、昨年、大学の教育学部を卒業し、小学校の臨時講師を経験しました。勤務先の

小学校では理科の専科教員として働いていました。働いている中で、子どもたちに授業をしていて一つだけ疑問に思ったことがありました。五年生の「生命のつながり(2)植物の成長と肥料・日光」という単元で、その単元では、植物の成長に不可欠な条件は日光と肥料だと学びます。その前の単元の「植物の発芽」では、発芽に必要な条件は、水と空気、適当な温度だと学びます。この発芽や成長に必要な条件である水や空気や適当な温度、日光は自然界にあるものだから子どもたちもすぐに納得できました。唯一の人工的なものが肥料だったので私も教えていて違和感を覚えました。ここで、一人の子どもから「先生！肥料って植物の成長に、絶対、必要なん？」と質問されました。私は、曖昧に返事をするしかできませんでした。そして後から、肥料について調べてみると、びっくりするようなことが解りました。それは、長年に渡って化学肥料ばかりを使い続けると、自然の生態系に悪影響を及ぼすというのです。環境教育にもキャリア教育にも力を入れている小学校でまさか知らない間に「自然を破壊する生産者」を育ててしまっているのではないかと考えました。と同時に、質問してきたあの子に明確な答えを用意できなかった自分の無知さを悔やみました。そこで、偶然にも有機農業と出会いました。有機農業について学び、私自身が「自然と共生する生産者」になり、自らの生き方を子どもたちに伝えていこうと決意しました。それが、私が有機農業を学ぼうと思ったきっかけです。

そして、私は現在、研修生として大分有機かぼす農園株式会社で実際の農作業をしながら有機農業について学ばせて頂いています。私は今まで、野菜が食卓に並ぶまでの過程や生産者の努力など考えたことも無く、スーパーで売っているのが当たり前のような感覚でいました。しかし、農業を始めて、そのスーパーで売っている野菜がたくさんの手間をかけ、愛情を注いで育てられている野菜であるということが解ってきました。これまで、消費者としての立場のみしか物事を考えることが出来なかった私に、生産者としての立場・視点を与えてくれました。

さらに、私ははじめ、有機農業にはあらかじめ構築されたシステム、マニュアルがあるものだと思い込んでいました。しかし、これは大きな間違いでした。有機農業には、様々な手法があり、合成化学肥料を使用しないことに加えて、土壌を浸食や貧栄養化、物理的な崩壊から保護することや、生物多様性の保全(例えば、一品種を栽培するのではなく、多品種を栽培するなど)、家畜類を屋外で飼育すること(平飼い)も含まれます。これらの枠組みの中で、個々の農業者はそれぞれ自分自身の有機生産システムを発展させます。それは、一朝一夕でできるものではなく、理論と実践と反省を積み重ね、試行錯誤を繰り返して個々の農業者がそれぞれ獲得できるものです。「失敗は成

功のもと」こんなことさえ忘れていた私に、有機農業はこのことを思い出させてくれました。

農業は自由です。だから、いろいろな挑戦をすることができます。でも、好き勝手になんでもして良いわけではありません。守らなければならないルールがあります。それは、自然界のルールです。今年の春は記録的な少雨でした。自然界から突き付けられたこの厳しいルールの中で、私は赤シソの種まきに挑戦しました。結果は、芽が出ず、失敗しました。反省する中で、畑にマルチを張ったり、ポットで育苗したりする方法もあると気がつきました。この失敗が、これから先の「成功のもと」になるように頑張っていくます。

「おおいた有機ネット青空市」開催

古長篤巳

おおいた有機ネットの設立以来の懸案のひとつであった、生産者と消費者が直接交流することで 消費者の有機農業と農業を取り巻く状況を理解し、支援して頂くことを主目的とする常設の定期市は 大分市志手の豆の力屋さんの協力により、今月より毎月第4土曜日の午前中に開催することになりました。第1回は5月28日に行いました。当日はあいにくの雨のなかでの開催となりましたが、9つの個人・グループのかたに参加いただきました。十分な宣伝期間もなく不安な出足でしたが、豆の力屋さんの常連客等に買って頂け、まずまずのスタートになりました。品ぞろえや、消費者との交流が遠慮ぎみなところ等、まだまだ改善の余地がたくさんありますが、来月以降も継続して開催していきますので有機ネット会員の皆さんの参加を是非お願いします。



次回開催日 6月25日(土) 10時~12時 生産者集合時間 9時

出品予定者は事前に遠藤さん(豆の力屋、電話097-594-6500)にご連絡ください。

有機肥料のことなら何でもご相談ください。土壌検査・施肥設計も致します。

有限会社 江島 大分県中津市山国町中摩

TEL 0979-62-3178 FAX 0979-62-2927



焦る

国東市 大熊良一

朝から雨。予報では一日続くという。すでに南九州は梅雨に入った。平年より8日早いらしい。天変地異が続く今年の梅雨はどうなるのだろうか。台風2号の行方も気になる。

すでに、気の早い百姓は田植えに突入している。盛んに水不足が喧伝されていたが、この雨で救われたら。水の無い時にあわてて植えるからこうなるのである。雨などというものは降る時期になると嫌というほど降るのである。雨が降るから田植えをするのであって、田植えに合わせて雨が降る〔降るらねばならない?〕のではない! 親父が言っていた古いことわざに「待てば海路の日和あり」。もとい、「あわてる乞食はもらいが少ない」だったか。

実際、このあたりで盛んに作られているヒノヒカリは早植えすると白化して品質が落ちる。「早植えしてはいけません」と県の技術者は繰り返すが、他人と競争して一日でも早く終えてしまおうとする百姓は聞く耳など持たない。こういうのを原発型農業というのである。まずいコメを大量に作っていたのではTPPに勝てない。適期に、有機物を投入して世界のだれにも負けないコメを作れば天下無敵だと思うがどうか。

これに比べ大自然の賢さはどうだ。鶏舎の入り口にある柿の葉が柔らかい緑になると、スーパーにカツオの刺身が並ぶ。身は柔らかいが淡いうまさのある刺身を堪能していると、何処からかホトトギスの声...。「トッキョ、キョカキョク!」。「目に青葉 山ホトトギス 初ガツオ」とはこのことか。

ホテルの季節になると、花壇の隅にホテルブクロの可憐な花。去年、ホウキグサのあった辺りにはこぼれ種が3センチほど芽吹いている。振り返ると、ヒマワリの苗が50センチまで伸びている。これもまた去年のこぼれ種。誰に教わったわけではない。彼らは自分の生きる道(季節)を生まれながらに心得ている。人間は彼らに学ぶことが多い。大自然の持つ力をお借りしてやるのを反原発型農業と呼んでいいだろう。

残念ながら私も百姓の一人。愚か者たちの早植えに「少しだけ」心が騒ぐが、ここは「山あれば山を観る 雨の日は雨を聴く 春夏秋冬 あしたもよろし ゆうべもよろし」(山頭火)といきたい。遠回りしたが、早植えをしている仲間の農家に「こら～、おれの前でうろろうして焦らすんじゃねえ～。コメが足りなきゃ貸してやる～」と申し上げたいわけである...? いよいよ田植えシーズン到来。(ブログ トリ小屋通信より)

自然エネルギーと農業 NO.24

4月から1カ月間九電本社前に座り込んでいました

NPO 法人 九州・自然エネルギー推進ネットワーク

小坂 正則

なぜ私は九電前の座り込みを始めたのか。

東北地震が起きて津波の被害がニュースで流れていたときに私は真っ先に女川原発が大丈夫だろうかと心配しました。テレビでも女川原発は無事に止まったといい、福島原発も無事に止まったというニュースが流れていました。何はともあれ



原発事故だけは免れたのだと思っていたら、深夜から翌日に電源喪失というニュースと共に翌日の爆発事故へと進んでいったのです。

「大変なことが起こってしまった」と、私は何をどうすればいいのかまったく頭が混乱していました。そしてこれまで私たちが訴えてきたことが証明されたのだということと、東電以外の電力会社に対して一刻も早く原発を止めるように、何らかの行動を起こさなければと思いました。しかし、震災後、2、3日でそのような行動を起こせるとは決して思えませんでした。今は一刻も早く瓦礫の下に埋まっている人を救出することが第一だと誰でも思うからです。でも、大分の地で救出に参加することはできません。そこで、救援物資や募金をやることも考えたのですが、それもなんだかもどかしい気がしました。そこで私は十六日に思いついたのです。「そうだ。原発の放射能被災者を大分へ受け入れよう」と。「それがせめてもの原発反対運動をやってきた者に一番ふさわしい支援だ」と。そして大分県内で被災者を受け入れてくれる方を募り、受け入れの準備をしました。残念ながら現地から大分へ避難する方はいませんでした。福岡には福島や東京から避難した方はたくさんいますが大分へ来た方は埼玉の母子だけでした。でも、再臨界などの事故の危険性もあるので受け入れの準備はまだ続けています。

3月の末になったら、ぼちぼち電力会社への行動を何かしなければと考えていました。ちょうど私は今年の3月一杯で郵便局を早期退職することになっていたもので、幸いにも自由にどこへでも行けるし、何でもできるようなフリーな状態でした。これもまた偶然なのですが、私には25年来の反原発運動の友人が北九州市にいて、彼もまた郵便局員なのですが、彼もたまたま今年早期退職をしました。彼が「九電へ玄海原発と川内原発に関する申し入れと質問状を出す」というので、私は冗談半分に「それじゃあ私は座り込みでもするから、あんたも暇やろう、一緒に九電前に座り込もうよ」と誘ったのです。最初は「1週間も座り込んだらニュースになるだろうし、ちょっとは抗議行動もしているという報道で原発に対する国民の関心も増えるだろう」と考えていたのです。ところが、実際に座り込みをするとなると、大変なことで、テントもいるし、机から椅子からたくさんの家裁道具が必要でした。そんな準備は福岡市の地元の市民運動家の皆さんが用意してくれました。何でも「大分と北九州の仲間が座り込むのに地元の福岡が何も協力しないのはおかしい」ということからだったそうです。

私と北九州の深江さんは、「さていつ引き上げようかなあ」と話しながら座り込んでいたのですが、一週間過ぎるころには実に居心地のいい場所になっていたのです。それは私たちが居心地がいいだけでなく、遊びに来てくれる多くの仲間や通りがかりの人や、東京から避難してきた方や福島から避難してきた人たちの「居心地のいいたまり場」になっていったのです。

そのうちいつも来る仲間たちが「1月とはいわず、何ヶ月でも座り込みをやろう」とか「玄海原発をとめるまで座り込みをやろう」などという過激な発言が飛び出してくるようになりました。しかし、1カ月の道路使用許可は福岡市と警察署も出してはくれたのですが、向こうも一週間の座り込みくらいだろうと思っていたようで、まさか本気で1カ月も座り込みをやろうとは考えていなかったようです。だから県警の課長は私たちに「本当はいつまでやるの」と、よく聞いてきたものです。私たちは「1カ月で出しているでしょ。だったら1カ月やるに決まっているじゃないの」と、とぼけていました。ところが、1月過ぎて延長願いを出したらさすがに「延長は認められない」と強硬な態度で排除にかかってきたのです。

逮捕覚悟での九電本店内座り込みは不発に

座り込みも随分日が経って行くうちに、私はある覚悟を決めていました。それは九電私たちの言い分を分かってくれないのなら、5月18日の交渉が終わった後に、その場に座り込んで、せめて1日くらいは九電の社内に居座ろうと考えていました。しかし、そ

の提案はみんなにいと簡単に否決されてしまいました。なぜなら、今一番優先すべきことは、この「九電本店前ひろば」をいかに確保するかということだ。「もし九電の本店に座り込んで逮捕者などが出たら、このひろばの使用許可の延長はないだろう。だから逮捕されるような行動は慎んでもらいたい」という意見です。私も「一番大切なことはこのひろばの維持だということで、もし、それが不可能だったら座り込んで逮捕をされてもいい」と思っていました。残念ながら私たちの願っていた二十四時間座り込みは不許可になりました。私はみんなに「なんだ、そんなことなら九電社内に座り込めばよかった」とつぶやいたものです。

環境保全型農業直接支援対策について

農林水産省は、平成 23 年度から、環境保全効果の高い営農活動に取り組む農業者に対して直接支援を開始しました。

支援対象となる取り組み

化学肥料、化学合成農薬の 5 割低減の取組とカバークロップの作付けを組み合わせた取り組み

化学肥料、化学合成農薬の 5 割低減の取組とリビングマルチ又は草生栽培を組み合わせた取り組み

化学肥料、化学合成農薬の 5 割低減の取組と冬季湛水管理を組み合わせた取り組み

有機農業の取り組み（化学肥料、農薬を使用しない取り組み）

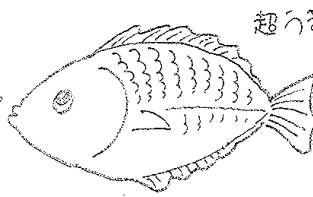
支援の水準

国の支援単価 4000 円 / 10 a

地方公共団体 4000 円 / 10 a

申し込みが 6 月末、申し込み書は農林水産省のホームページからダウンロードできます。詳しいことは市町村又は振興局にお尋ねください。

釣り好き
マサ村長の



超うまい

黄金ししび

(チヌヤクロを使て)

海の恵みに深く感謝します

ゴールデンウィークには別府湾で大物チヌとこままた形の良いクロ(メジナ)を毎日釣あげていたマサ村長。ジリッハ釣るだけでなく魚料理も上手(得意)その中でも金魚まじり絶賛のメニューを公開します。もしマサ村長から釣った魚をプレゼントされるといふ好運に相遇したらぜひ作ってみてネ。(魚は金魚やメジナ)

材料 チヌヤクロなど白身の魚 大なうし 中なうし

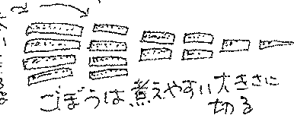
- ・ゴボウ 1
- ・もめん豆腐 1丁
- ・しょうがとにんにく(各1かけ)
- ・オリーブオイル(うちはオリーブオイル)
- ・塩・みりん
- ・おいしいだし(まじり料理の(ウイ)) 強〜10杯♡
- ・小麦粉

下ごしらえ

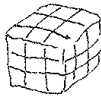


魚はうろここ
ハラフタをとり
区のように切る

大い
4つ
わり



にんにく
(しょうがは
煮めの
千切り)



←もめん豆腐は
2cm×4cm角に
切る

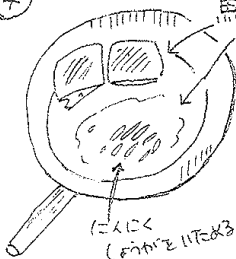
① 魚は皮に切りこみを入れ、強めに塩をすりこんでおく。おなかの中は特にたっぷり。15分以上放置。

② 魚に塩がこみこんでいる間にゴボウ・とうふ・にんにく & しょうがを切る。

③ ①の魚から出た汁を捨て、切身全体に小麦粉をまぶす。フライパンに多めのオリーブオイルを入れ、魚の両面を焼く。

魚の臭いがとれ、
味がまろやかに
なりやす

④ 魚をフライパンの片隅におせ、空いた所ににんにく・しょうがをいためる。



にんにく
(しょうがをいためる)

⑤ そこに水を500~800ccほど入れ、お肉たじま
おいしいだし大さじ1を加え、ごぼうを入れ
「フタ」をして蒸し煮にする。

⑥ ゴボウ: 魚に味が通ったら、スーフの味を見せ、塩で
調味する。最後にとうふを入れ3分ほど煮て
出来上がり。 (とうふから水がでるので、そう一度
味を見せねー)

お知らせ

大分県母親大会

日時 6月26日(日) 10時
~ 12時

場所 大分市コンパルホール

講師 安斎育郎さん

(工学博士・放射線防護学)

演題「だまし世を生きる知恵」

福島原発事故から

見えてくるもの

資料代 700円

連絡先 新日本婦人の会

097 568 8931

「週刊金曜日」講演会

日時 7月3日(日) 14時~

場所 コンパルホール視聴覚室

講師 北村肇さん(「週刊金曜日」
発行人)

演題 「大震災・原発とメディア」
- メディアは真実を伝えているか

入場カンパ 1000円

(大学生以下500円)

連絡先 諫山

080 1709 7769

無農薬のお米を作ろう

無農薬、無化学肥料で米を植えて、育てて、最後収穫して、皆で収穫祭をしませんか！

田植え、手除草、小松明、稲穂鑑賞会、稲刈り、脱穀、収穫祭
総べての作業に参加できなくてもかまいません。

参加費 3000円 / 1家族(作った米10Kお持ち帰り)

作業当日、交流会、有機農産物の販売もします。

お問合せ 森岡雄平 緒方町 0974 - 42 - 3501

大分市下郡1602 - 1 大分県保険医会館

NPO 法人おおいた有機農業研究会 <http://www.d-b.ne.jp/oitayuki/>

おおいた有機農業推進ネットワーク <http://www.d-b.ne.jp/unet/>

TEL097 567-2613 FAX097-567-2614 メール oitayuki@po.d-b.ne.jp